

# 親の会だより

—第67号— 2020. 3. 31

利府町手をつなぐ親の会

事務局：利府町社会福祉協議会

住 所：〒981-0104

宮城県宮城郡利府町中央2-11-1

電 話：022-356-9060

## ❀ 副会長挨拶 ❀

この冬は、雪が少なく過ごしやすい暖冬でした。が、一転、新型コロナウイルスの流行が広がるのか、収まるのか、とても気がかりな毎日です。

私たちの子どもは病気にかかると、痛い・辛いなど伝えるのが難しく、重症化につながり易いので、いつも以上に予防に努めたいと思います。

さて、今年親の会発足40周年です。町内を見ましても新しい事業所が増えたとはいえ、40年前も今も「親なきあと」の不安がなくなった訳ではありません。今後も設立に尽力された先輩方の思いを受け継いで、会員の皆様と一緒に親の会の活動を大切にしていきたいと思っておりますので、皆様のご協力とご支援をお願い申し上げます。

金野 敬子

※ 令和元年度の活動を無事終了しました。

※ 令和2年度の総会は開催を中止し、同封の総会資料をもって代えさせていただきますのでご了承くださいませお願いいたします。

## ❀ 二市三町連絡会研修会 ❀

塩釜地区手をつなぐ育成会等連絡会研修会が11月22日(金)に七ヶ浜町生涯学習センターで開催されました。

社団法人シニアパートナーズ代表理事の鈴木氏による講演で「成年後見制度を活用した『親なきあと』の備え方」がテーマでした。

成年後見制度とは、認知症・知的障がい・精神障がいなどによって物事を判断する能力が十分でない方の権利を守る援助者（成年後見人）を選ぶことで本人を法律的に支援する制度です。

成年後見制度には大きく分けて2つの制度があり既に障がいなどにより後見人が必要と診断された場合に利用する「法定後見制度」とまだ自分で財産の管理が出来、認知症等も発症していないという方が将来に備えて利用できる「任意後見制度」がある事を説明して頂きました。

「親なきあと」の心配は障がいのある子をもつ親にとっては、とても切実な問題です。まだまだ先の事と思っていましたが親が元気なうちに備える事が大事であると改めて考える機会になりました。

大浪 明美

## ❀ クリスマス会 ❀

令和元年12月7日（土）、利府町保健福祉センターを会場に、恒例の「クリスマス会」に参加しました。

この活動は、知的に障がいを抱える対象者の余暇活動の機会をつくり、親子と共に楽しみを持ってもらえるよう、毎年開催されています。

前日から会員の皆様が集い、可愛らしくも気合の入った飾り付けにいつも感心しながら、見させて頂いております。

今年は、三浦紗理衣さんのミニコンサートやビンゴゲーム、参加者お一人お一人がプレゼントを受け取りながら、熊谷大町長との記念写真など和気あいあいと盛り上がり、楽しい時間を過ごせました。

時の流れにより、「クリスマス会&成人を祝う会」として開催された時期もありましたが、皆成人を迎えられ各事業所でのお仕事や催しと重なったり、施設に入所されたりと参加のスタイルも変化してきました。

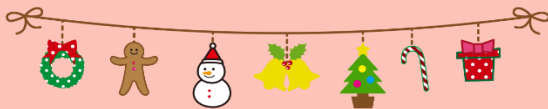
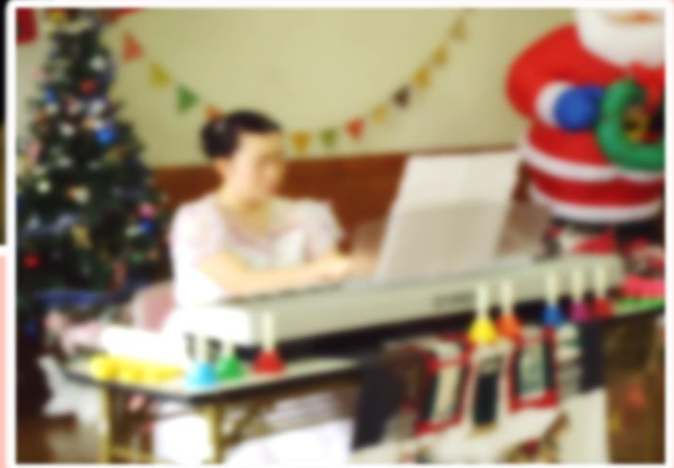
手をつなぐ親の会では、ご家族様だけの参加でもウェルカムな雰囲気を作り、久しぶりの再会や近況など、世代を超えた交流の場にもなっている「クリスマス会」でもありました。

事務局 伊藤雄介  
(利府町社会福祉協議会)





## ❁ クリスマス会 ❁



サンタさんや親の会からのプレゼントに紗理衣さんのピアノ演奏、そしてビンゴゲーム。いつもは途中で不機嫌になってしまう娘ですが、今年は最後まで穏やかに楽しむことが出来ました。ありがとうございます。

クリスマス会を支えてくれた皆様、お世話さまでした。



## ❀ 研修会 -施設見学- ❀

令和元年11月1日（金）大衡村の「わ・は・わ大衡」に参加者20名で見学してきました。

就労継続支援（B型）、生活支援、日中一時支援（大衡村在住者のみ）の事業内容で運営しており、大衡村所有の土地のすはらしい景色のなかに施設がありました。広々とした空間、明るい建物で利用者の皆さんは一生懸命に仕事をしていました。

将来は隣の敷地にグループホーム、居住施設を作る予定との事、大衡村の大きなバックアップを感じました。

現在利用している施設や行政への要望等に皆さんおおいに参考になったのではないのでしょうか。

昼食は台風19号の爪痕がまだ残っていた大郷町のレストラン「最呂部居屋」で美味しく頂き、帰りの途中では「道の駅おおさと」で沢山買物をして、皆さんとの楽しい会話をし、お腹もいっぱい充実した一日でした。



伊藤 紀子





## ❀ 利府町議会報告会 及び 利府町障がい福祉団体連絡会 ❀

令和2年1月30日(木)利府町議会議員の方々と利府町障がい福祉団体（手をつなぐ親の会，身体障がい者福祉協会，精神障がい者家族会・あけぼの会）の出席者による、利府町議会報告会とテーマ「障がい者福祉団体の現状と今後～だれもが暮らしやすい町づくりに向けて～」の懇談、意見交換会がありました。

利府町議会議員の方より、議会概要など議会報告をお聞きし各障がい者団体の現状の報告の後、懇談・意見交換が始まりました。先に役員会内で知って欲しい事など話し合っ、親の会への若い方の参加が少ない事、障がい者も健常者も同じ地域で生活する事、特に老いても子供と共に生きる共生の場があれば良いと思う事、重度障がい者には医療ケアが必要であり、現状は足りない事などをお話ししました。親の会は10人参加しましたが4つのテーブルに分かれて議員の方・他団体の方と、それぞれ意見交換できたと思います。他団体の方も、障がいを持つ者に対しての理解を広くして欲しい、親が老いて子供をどうすれば良いか悩んでいる、会員の高齢化など、同じ悩みをかかえている事もわかりました。議員の方々には熱心に耳を傾け質問されたり考えてくださったり、本当に良い機会をいただいたと思います。

今回は役員のみでの参加でしたが、ぜひ会員皆様の意見を機会がありましたら、直接伝えて欲しいと思いました。

菊地 幸恵



## 🌸保健福祉課との意見交換会🌸

2月20日（木）、保健福祉課の小畑班長と柏崎主幹をお迎えし意見交換会が行われました。

今回は、障害福祉サービスから介護保険への移行や手続き、介護保険で足りない部分は引き続き障害福祉サービスを併用して補うことができることなどの説明をしていただきました。

実際、我が子が65歳になる時は、親が手続きをすることは難しい状況と思われます。親族や成年後見制度に託すことを考えなければとあらためて感じました。

また、共生型グループホームや町内での新しい施設の動きなども話題になりました。

参加者から、近況報告、このごろの悩みや思いを話す時間もあり「来てよかった！」の声も聞かれ有意義な会となりました。

伊藤 さつき



## —◇編集後記◇—

寒かったり暖かかったりを繰り返す早春の気候となってまいりました。今、コロナウイルスの感染が騒がれていますが、日本中の方が、感染予防に気を付けたお陰でインフルエンザの患者数は例年よりずっと少ないという話もございます。

マスクが手に入りづらいなか、基本の手洗いはやり過ぎということはありません。

『1作業、1手洗い』を意識すると手指の衛生の保持につながりますね。一斉休校やイベントの中止など、私たちの生活に影響が広がっていますが、少しでも早く終息へ向かうよう願ってやみません。

今回も原稿のご協力ありがとうございました。

広報担当：齋藤・菊地・伊藤(さ)・大浪